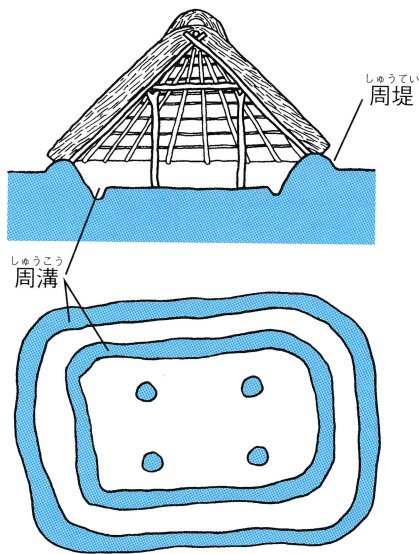


Q&A3. みずこ かいづか 水子貝塚に住んでいた人と住まい

昭和13年(1938)からの数回の発掘調査で、
 竪穴式住居跡17軒が確認され、うち15号住居跡
 からは人骨と犬の骨が発見されました。

Q: 縄文人たちは、住居にどんな
 住み良い工夫をして
 いたのかな?



▲上から見た住居跡

博士: 『これが昔の住居のつくりじゃ。』

モリ: 『地面を掘って家を建てているのか。』

博士: 『住居のつくりには、必ず人が住みやすくなるための工夫があるのじゃ。』

カヤ: 『本当! 家のまわりに溝(周溝)や土盛り(周堤)があるわ。どんな役割をしているのかしら?』

博士: 『良いところに気がついたぞ。』

A 地面を掘った半地下式構造の住居を竪穴式住居といいます。
 地面を掘る→井戸水のように冬は暖かく、夏に涼しくなる効果
 があります。

周堤→風や雨水などが中に入れないためのもの。保温効果もあり、
 今の家の壁や塀のようなもの。

周溝→溝に板や木を固定して、土壁が崩れるのを防いだ。

また、何重にも重なる周溝は住居が次第に広がったことを示しています。
 公園内に復原した竪穴式住居に入ってみよう!



埋葬された水子の村人

平成3~5年の発掘調査で貝塚の下から30歳ごろの女性の人骨が手足を折り曲げた姿(屈葬)で発見。脇にある柱の穴からは生後1年くらいの雄犬の骨も出てきたんだ。

いっしょに暮らしていたのかな?



▲15号住居跡から出てきた人骨(左)と犬の骨(右)